

## 第13回国土交通中部地方有識者懇談会

### 「まんなか懇談会」

( 詳細議事録 )



平成17年12月7日（水）  
名古屋銀行協会5階大ホール

須田 寛 座長（東海旅客鉄道㈱相談役）

今日の議題の趣旨は2点ございます。

1点目は、9月30日に発表いたしました提言書に対して出された幾つかの要望事項に関する議論と中部地方整備局が掲げた幾つかの実行項目の進捗報告です。

2点目は、中部の圏域について皆様にご議論いただこうと思っております。その理由としては、万博後いろいろな面でフォローアップをしていく際に、あるいは何年後かにこの計画を見直して更新していく際において、対象とする範囲をある程度頭に描いておきませんと、なかなか焦点が絞りにくいからです。

2つ目の理由としては、今、国土審議会において国土形成計画の策定作業が進められております。その国土審議会の圏域部会において、全国を10程度のブロックに明確に分けて将来計画を立てていくということになりました。このブロックの分け方によっては、中部の将来像が非常に大きく変わる可能性がございます。したがって、我々まんなか懇談会としても、ブロック分けの参考になるような考え方を整理しておいた方がいいのではないかと思います。

但し、この場では、中部は何県だということまでをきちんと決めてしまうつもりはございません。それは大変難しいことでもございますし、それを詰めていくことになるとやや政治的なものが絡んでまいります。けれども、圏域の考え方として、すべての点において「自立」できるまとまりが一つの圏域になるだろうと思います。

本会では、むしろ圏域をまとめる基本的考え方を議論していただければと思っております。

奥野信宏 委員（中京大学総合政策学部長）

全総は国・地方自治体の指針としての役割を終えた。今後は地方が主体となってブロック圏別計画をまとめていく必要がある

昭和37年に全国総合開発計画（全総）が作られ、その後約10年おきに次期計画が作られ、これまでに第5次計画まで作られてきました。この全総は国・地方自治体の施策にとって大変大きな指針性を持っていたわけでありますが、平成10年に出された「21世紀の国土のグランドデザイン」（第5次全総）辺りから明らかに指針性がなくなってきたという印象を持っております。

全総が指針性を失った要因の1つとしては、全国計画を作る意味がなくなってしまったのではないかということです。各ブロック圏は巨大な経済力を持って成長している今の時代、中央において、各地方の個別の事業規模まで書き込んだ計画を作ることが果たして意味があるかどうかということが非常に大きな論点になりました。

約5年程前に、国土審議会の基本政策部会、調査改革部会でこのような基本的な問題を出発点として議論が始められました。そのときに、全国計画を作る意味があるかどうかということから議論して、今度は全国計画のブロック圏別計画を作って、それを国の計画にしようということになりました。大きな特徴として、全国計画についても必ず都道府県の意見を聞いてつくることが挙げられます。このようなことは当たり前のことではないかと思うのですが、当時としては当たり前のことではなかったのです。

ブロック圏計画については地方主体で作るということになっているのですが、何もかも自由に作ってしまえるかというところではなくて、ある程度大まかな数字くらいは中央から示されることになると思います。

「国土の均衡ある発展」という言葉は様々な解釈を容認してきたため、指針性を失ってしまった

全総の指針性がなくなってきた2つ目の理由は、全総の根底にある「国土の均衡ある発展」という考え方にあります。これは半世紀近く生きている言葉でして、ある意味ではすばらしい言葉だと思いますが、この間に日本の社会、経済は激動しており、その間ずっと生き残ってきたということは、いろいろな解釈を許してきたということでもあります。例えば、大都市圏の発展の成果を地方に配分するという意味にも使われてきましたし、各地域が自分の所の特色を生かして自主的にやっていくのが均衡ある発展なのだという解釈もされてきました。ですから、今この言葉があってもほとんど何も意味しないということになってしまっているのです。

結えに私はこの言葉を随分批判してきました。それは、地方への再配分が悪いということではなくて、何も意味しない言葉がそのまま通用するというのはいかがなものかということからの批判です。

開発に対する批判の高まりとともに全総の指針性は失われていった

指針性がなくなった3番目の理由として、開発への批判があると思います。これは全総に対する誤解もあるのですが、「全総＝開発」、「開発＝環境破壊」というような捉え方をされて、開発を後押しする計画として全総に対する批判もあったということでございます。

そういったことで今回、国土形成計画法ができたわけであり、全総を廃止して新しい理念で国土計画を作ろうということなのです。

国土形成計画においては、地方が主体となってブロック圏計画を作る

ブロック圏計画を策定するにあたっての特徴としては、まず第1点目に、県など地方自治体の計画策定への参加ということが挙げられます。すなわち地方が主体となってブロック圏域の計画を作るということになるのです。

新たな計画に流れる基本的な思想としては「開発からの脱却」である

2点目の特徴として、開発からの脱却という考え方があります。形成計画法には「開発」という言葉はいっさい使われていません。「利用」、「整備」、「保全」という言葉が用いられ、自然と共生した美しい国土の形成ということを標榜しています。

地方ブロックの分け方についてはまさにこれから本格的な議論が為されようとしている

圏域という問題についてこれまでどういった議論が行なわれてきたかといいますと、地方促進計画法では圏域がちょうど10あって、地方ではブロック圏計画に一本化されるということになりますし、大都市圏においてもブロック圏計画を優先して調整をするということになっており、実質的にブロック圏計画に一本化されるということになります。これは単に地方促進計画法で圏域が10あるから国土形成計画法においても圏域が10だという議論の過程ではありません。

圏域のまとめ方については、7であるとか8であるとかいろいろな議論をしたのですが、現段階で7、8といった具体的な数字を示すと様々な憶測を生むため、当面は「10程度」という表現

で圏域部会で議論が始まったところです。まだ国土交通省の方では、各地方自治体の首長の意見を聞いている段階だと思います。

議論の中では、都道府県を解体して藩単位で考えたらどうかという議論も出ておりました。先般、地方制度調査会が道州制について幾つかの基本的な考え方を出していますが、その中では都道府県は分割しないという方針が出されています。道州制とブロック圏計画は必ずしも直結するものではありませんが、各地域においてもそれぞれ道州制を議論していますから、全く関係ないとは言い切れないところがあると思います。

#### 圏域のあり方については各地域でそれぞれ様々な主張がある

中部圏の議論ですが、東海と北陸の扱いが議論になるかだと思います。ブロック圏をどうするかという問題は全国的に大きな問題となっており、たとえば、新潟は東北に含めるという強い意見もありますけれども、新潟は嫌だと言っているし、関東甲信越なのだから甲信越の方に含めるべきではないかという意見もありますが、資料の表で見ると中部圏になるだろうということになります。また、徳島や鳥取などは近畿に対して非常に関心がある一方で、近畿の方では「近畿は兵庫まで」ということを強く主張しています。全国あちこちで問題があるのですが、中でも北陸圏は大きな論点になるのではないかと思います。

中部圏は、北陸をサブブロックとして位置づけ、これを包含した形で自立した圏域を形成すべきではないか

先程、圏域のあり方として「自立」のできる地域というご発言がございました。「自立」した地域ということになりますと、経済的なデータを見る限り、なかなか「自立」している地域はない。基本政策部会の報告でも最終的には非常に微妙な表現をしています。すなわち、一つのまとまった圏域ではあるけれども、他の地域の援助を受けながらやっていくというような表現になっているのです。

北陸について考えてみますと、例えば、福井は近畿だという主張がありますが、そうすると北陸はバラバラになってしまいます。一方で北陸がバラバラになるのは嫌だという思いもあります。

ではこのようなジレンマに対してどうすればよいか。それは、中部圏という大きなまとまりの中にサブブロックを作ればよいのではないかと思います。北陸地域において中部圏の計画と齟齬を来さないようにサブブロック圏計画を作ってもらい、それを中部圏の中に位置づければよいのではないかと思います。

#### 広域ブロック圏計画を考える際に、東海という圏域が埋没してしまわぬように伊勢湾から見た流域圏として捉える見方が重要

今後、広域ブロック圏をいろいろな指標を用いて決めていくわけですがけれども、私は湾から見た流域が大事ではないかと申し上げています。例えば伊勢湾から見た流域圏という捉え方ができると思いますが、伊勢湾に接する各県は環境面で同じ船に乗っていると言えますし、流域は同じ文化を共有していますので、それが一つのまとまりのある地域ではないかということです。

なぜそういうことを申し上げたかということ、第五全総のときもそうだったのですが、圏域を

議論している場では、最終的に東と西だけの話になりまして東海圏は消えてしまうのです。したがって、東海圏がなくなると困るということで流域圏を強く主張しております。もちろん、東海の話ばかりを中央の会議の席上でしていてもいけません。湾から見た流域圏という捉え方は伊勢湾だけではなく、仙台湾も、東京湾も、大阪湾も、瀬戸内などいろいろな地域に共通する捉え方であるわけです。

桑田宜典 委員（(財)岐阜県県民ふれあい会館会長兼理事長）

隣接する7県との連携は必至であり、特に愛知、三重とは共同体として強い結びつきがある

岐阜県という立場でものを言えば、7つの県に隣接しておりまして、行政上、隣県との連携は避けて通れないわけでございます。

県行政を進める中で通常のお付き合いは、愛知、三重、滋賀、福井、石川、富山、長野という範囲になっております。そうした中で、岐阜、愛知、三重はいろいろな形で一つの共同体的なものとして特に密接なお付き合いをいただいているわけでございます。

東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道、東海環状自動車道の整備によって隣接する7県との関係はより緊密化に向かうであろう

そうした中で、岐阜県を中心に考えますと、道路条件がものすごく変わってまいりました。特に、東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道、そして東海環状自動車道が整備され、人の流れ、あるいは産業、文化の流れが様変わりをいたしました。陸の孤島といわれた岐阜県が様変わりしましたので、これからのお付き合いは岐阜、愛知、三重を越えて、隣接する7つの県と非常に緊密になってくるだろうと思えますし、またそうしていかなければならないと思うわけです。これからの中部はもっと広く捉える必要がある

中部の捉え方が各省庁で違ってきておりますけれども、これからはもっと広く捉えていく必要があるのではないかと。それぞれの県のお立場はあると思えますけれども、例えば岐阜県を中心にすれば7つの県と静岡県とのお付き合いがこれからさらに緊密になってくるし、そうしていかなければならないと思っております。

中部圏はまんなか懇談会に参加する4県から出発するのが最も現実的である

中部圏の範囲を現実的、具体的に考えますと、「まんなか懇談会」にご参加をいただいた4県から出発するのが最も地に足のついた内容で議論できるのではないのでしょうか。ご参加いただいてない所がある日突然、こういうふうですよということになったときに、果たして素直に受け入れていただけるのかどうか危惧いたします。

道州制の議論の今後の展開は大きな関心事である

それから、道州制はこれから避けて通れない時代の流れになってくると思えます。そういった中で、道州制の議論がどのように進んでいくのか。これも非常に関心のあるところでございます。

小出宣昭 委員（中日新聞社常務取締役編集担当）

中日新聞の小出でございます。この懇談会は中部地方のことを一生懸命考える懇談会という

ことで、私も非常に興味を持って参加させて頂いております。名古屋に生まれ育ち、中部地方の新聞社にずっと身を置いてきました。

私は社会部という、事件・事故に常にアンテナを張っている部で育ってきました。その体験を通じて感じるのですが、中部圏とか何かという問題はあるところ「なわばり」の問題であり、どのあたりの「なわばり」がちょうどいいか、「なわばり」の中味をどうするかという話だと思っております。

社会部記者の体験でいいますと、台風とか地震の際に避難所の取材を何度か体験しました。各地の避難所の様子をずっと見ていますと一定の定理がありまして、体育館とか公民館に非難されてくる方たちは最初に隅っこを占領するのです。その次は壁際を占領して、一番人気がないのが真ん中です。恐らく、人間の本能として、落ち着くためには何らかのボーダー（境界）が必要なのではないかと思います。

中部圏を見てもみますと、東海3県というのは太平洋という壁があって何となくまとまっている、北陸3県は日本海という壁があってまとまっている。けれども、体育館のまんなか辺りは最後までなかなか埋まらないのと同じことが、中部圏という圏域を考える際にも当てはまるのではないかという気がします。

#### 北陸地方は東海圏より東京圏、大阪圏との結び付きが強い

金沢にある北陸本社の報道部にいた頃のことですが、1970年代に入って「情報化時代」とか「情報化社会」という言葉が出てきて、金沢に入ってくる情報、出ていく情報がどの地域と結び付いているかということ調べました。同様に、福井、富山についても調べました。そのときに用いた指標が、テレックスの受発信先、100番通しの市外通話先、そして当時の国鉄の定期買い旅客数です。

結果として国鉄の定期買い旅客数、テレックスの発信先・受信先、100番通しの市外通話先がほぼ一致するのですが、金沢の情報送受信先の40%～43%は京阪神でした。東京圏との結び付きは20%台。名古屋との結び付きは15～16%でした。福井になりますと京阪神のウエイトが5割を超えます。東京が20%前後で、名古屋圏も大体20%前後でした。富山になると東京との結び付きがぐんと増えて、関西、東京がほぼ同数で30%台。名古屋のウエイトも20%台に増えます。

北陸地方の実態として情報面から見ると、名古屋圏といいますが、東海3県ブロックとの結び付きは15%～20%台で、東海ブロックと北陸ゾーンとの結び付きは弱い状況にあったと言えます。

その後三十何年経っても基本構造はそう変わらないと思います。金沢弁は関西弁に近いし、「小京都」と言われています。当時でも北陸の産物を手に入れるのは、大阪、神戸の間屋さん頼むとすぐ手に入るとか、そういう問屋機能が京阪神に偏っている。この構造は江戸時代から長年続いた精神構造が情報面に反映していると思うのですが、この構図はなかなか変わりません。

東海北陸自動車道の全線開通によって北陸地方と東海地方の結び付きは富山県を中心に大きく変わる可能性がある

けれども、面白いことに富山では国道41号を軸にトヨタ関連の工場があって、情報面においても名古屋との結び付きが結構高いという特徴がありました。北陸3県の中では一番名古屋との結びつき高い。したがって、東海北陸自動車道が全線開通すると、富山を中心にかなり様子は変わるのではないかと思います。

当時、物流についても調べたのですが、物流は名古屋のウエイトが高いですね。情報面での結び付きよりも、物流面では名古屋のウエイトが高くなります。

情報、物流のデータから各県の結び付きを把握し、東海地方と北陸地方の連携のあり方を考えるべき

したがって、もう一度改めて、各県がそれぞれどの地域とつながっているか、情報面、物流のデータを取ってみたいと思います。もし、北陸地方の状態に変化がないとしたら、サブブロックのような形で東海ブロックと緩い連合をとった中部圏のあり方もありうるのではないかと思います。これは無理に進めてもくっつかないという面がありますので、もう一度正確に調べるのも一興ではないかと思います。

「なわばり」という考え方から東海地方と北陸地方のつながりを考えることも重要

冒頭に、「つまるところこれはなわばりの問題だ」と言いましたが、「なわばり」という見方は非常に大事だと思います。人間の集団というのは「なわばり」がないと力が入らないのです。だから、圏域の問題はどのあたりの「なわばり」にしたら気合いが入るかということと非常に密接な関連があると思います。現在、過去、あるいはいろいろなデータを見ると、東海地方と北陸地方は別々の方が気合いが入りやすいということが言えるのではないかと思います。

東海地方と北陸地方は環境や自然を通して結びつく高尚な圏域を目指すべきではないか

東海と北陸がどうしてこのような関係になったかを考えると、中部山岳の存在が大きいです。これを障害として捉えるのではなくて、中部山岳の大自然は双方にとってこれからの時代の大切な財産であるというように意識を変えると、新しい気合いが生まれるのではないかという感じがします。

したがって、将来的に環境とか水とか大自然が全日本的な共有財産であるという考え方が生まれれば、太平洋側と日本海側の緩い連合体は近畿圏や東京圏とは違って金だけで結び付いているのではない、高尚な圏域ができるような気がします。是非そのような方向で考えていければよいと思います。

歴史的背景をも考慮した考え方で圏域の議論を展開し、それを強みにできる方法を考えたい

関所を境目にして西と東に分けるという見方がありますが、私が調べた範囲では、平安末期か鎌倉くらいまでは関東と関西の境目は逢坂の関にあり、京都と滋賀県の県境にありました。逢坂の関から西を関西といい、そこから東は関東でした。それが、室町から戦国時代になると、不破の関という、関ヶ原から三重県の鈴鹿の関を結ぶ線が関東と関西の境目の関所になり、東に移動したわけです。それから、江戸の初期には箱根の関が境目になり、箱根から東と箱根から西に分かれた。このようにして関東と関西の境目が時代的に変わっているのです。

江戸時代くらいまでは、三重県から東はずっと関東でしたけれども、箱根の関になってから急に関西になったのです。名古屋までひっくり返して、関東から関西にトレードされたのです。

一方で、JR東海の関西線は名古屋から始まるわけです。それから、プロ野球の二軍で中日ドラゴンズはウエスタンリーグに属します。だから、このあたりは住所不定なのですね、歴史的に見てそれをかえって強みにするような方法がないかと思っております。

水谷研治 委員（中京大学大学院教授ビジネス・イノベーション研究科長）

中部の圏域としては、東海4県と長野、石川、富山であれば無理が少ない

この問題につきましては長年悩み切っております、いわゆる中部圏は9県ということに公式的にはなっていると思っております。

しかし、どう見ても、滋賀県を入れるのかなという抵抗がございまして、福井も昔から京都と深い関係があるので中部圏に含めるのは無理があります。けれども、中部圏に含めているにはそれだけの理由がございまして、たとえば経済取引にしましても福井の繊維は昔は中部と交流があったのです。現実には今はもうなくなっております。それから、新潟を入れるか、あるいは山梨はどうするかという問題がありますが、山梨はいろいろな意味で東京圏だろうという感じがしております。新潟もつながりからいきますと関東だという具合に思います。ですから、非常に迷い迷って今日までできております。いまだに結論が出ません。

比較的無理が少ないという意味では、滋賀を外し、福井もやはり関西圏だということで、中部は東海4県、それに長野、石川、富山の7県が現実的ではないだろうかとのところはそのような考えでおります。

東海ブロックと北陸ブロックという2つのブロックで中部を形成するのが自然な形ではないか

結論的に申し上げますと、中部としては4県、愛知、岐阜、三重、静岡という考えよりは、東海ブロック、北陸ブロックで中部というのが自然ではないかと私は思っております。

水尾衣里 委員（名城大学人間学部助教授）

自然条件、歴史、風土、文化を踏まえた「バイオリージョン」という考え方でも圏域の議論を展開したい

今後議論をしていくときにもう1つ加えて考えた方がいいと思っている視点は、自然条件と生態条件、歴史、風土、文化も含めた社会の条件である「バイオリージョン」という考え方で議論がなされてもいいのではないかと思います。道路はつながっているわけですし、水につきましても河川の維持管理等を含めた場合にも、「バイオリージョン」というのは基本的な考え方になるのではないかと思います。

一般的な人々が持つ中部圏のイメージが非常に重要な観点

それから、一般的な人たちがどのように中部圏をイメージしているかということも非常に大事な観点かと思っております。警察の関係ですと石川、富山、福井、愛知、岐阜、三重という6県で管区が成立しているので、北陸と言われている所は中部というイメージを一般の人たちも持っているのではないかと思います。個人的には、山梨と滋賀と長野は微妙なところだという印象があります。

今後の圏域の議論において北陸各県の参加が重要



「まんなか懇談会」の今後の圏域の議論をしていくに当たりまして、やはり北陸各県を加えていくことは重要なので、この会議に参加していただければもっと議論が深まるのではないかと思います。

圏域を多面的に捉えていくために民間の動きや他機関の考え方を参考にすることも重要

新聞記事によりますと、地域交流連携連絡会が設立されたそうですので、このようなところの研究状況でありますとか考え方も参考にして多面的に捉えていくことも大事ではないかと思えます。

東 恵子 委員（東海大学短期大学部教授）

圏域を考えるうえで各県の物と情報の流れを把握する必要がある

中部の圏域を考えるうえで物の流れと情報の流れを調べておく必要があるのではないかと。これがやはり文化とか経済の基本になるのではないかと考えている次第です。

県を越えて共有できる基盤づくりが課題

社会構造が随分変わってきている中で、スーパー中枢港湾など地域として経済性を上げるといような観点や、観光交流という面で考えたときに、交通の連携、新聞や放送などの情報ルートによってお互いに共有できる基盤づくりができるものと思えますし、それが圏域を越えられるものなのか越えられないものなのかということも、これから考える上での課題になってくるのではないかと考えている次第です。

流域、海域、沿岸域は圏域が分けられたときに固定されるものか考えたい

環境という観点からは、流域、海域、沿岸域といった観点からの捉え方は、圏域を明確に分けたときにおいても、別の捉え方として成立するものなのかどうかということについても考えたいと思っております。

アジアを意識した場合、特に北陸との連携は重要であり、県を越えた括りを考える必要がある

スーパー中枢港湾に名古屋港、伊勢湾の港が選ばれているわけですがけれども、ドイツやオランダなどでは港を中心に経済効果を上げるために周辺のトラックや海運を連携しながら港の効率性を上げているように思いました。

そういった観点からも、県を越えた括りがあってもいいのかなと思えます。特に、アジアの国を意識したときには北陸との連携は大きな意味を持つようになってくるのではないかと思います。

以上のように考えますと、中部圏としての範囲は、小学校で教えている中部地方の範囲に三重県を加えて考えるといいのではないかと考えている次第です。

中村幸昭 委員（株鳥羽水族館名誉館長）

一過性に終わった万博のあとの国際的なイベントが必要

圏域の問題と別に、ポスト万博のことについて言及したいと思います。

セントレアが開港して、地球博開催中とその後、市内のタクシーの運転手さんに聞くと、万博期間中は市内のホテルは満室続きで、その後がらで、半額セールをやっている所もある

とのこと。タクシーについても需要が落ちついたとこういうことであります。セントレアは残っておりますが、万博は一過性だったということと、全入場者のうち、外国人が予想より少なく5%に過ぎなかったということですから、もっと外国人を集める国際的なイベントが必要になるということを感じました。次なる目標は、ドイツのサッカーワールドカップ、続いて2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博と続くイベントに肩を並べるイベントを中部で開催できるかということになるかと思えます。

#### 航空・ロケット技術をテーマにした宇宙博を中部で開催するとよいのではないか

中部のこれからの目標として3つ提案申し上げたいのですが、1点目は地球博からスケールアップして宇宙博をやったらどうか。この内容は、人類で初めてガガリンが有人宇宙ロケットで成功した歴史の資料もたくさんあるし、アメリカのNASAが打ち上げたアポロ、スペースシャトル「コロンビア」、あるいは中国もロケットをどんどん出しています。中部は航空機を作った本拠地でありますから、それも関係して岐阜には航空博物館もあります。実は、世界の博物館の中でスミソニアン航空博物館がナンバーワンでありまして、1ミュージアムで1,700万人の入館者があり、そのうちの半分を外国人が占めているということですから、いかにスミソニアンの魅力があるかということをお話していると思えます。

#### 世界中から最先端のロボットを集めた国際的なロボットフェスティバルを開催するというのも一案である

2つ目は、中部はモノづくりの拠点であります。ロボットの先進国でもあります。ロボットも多様でありまして、1ミリロボットの医療ロボットなどもあります。現在、ロボットの関係を調べると、日本だけではなく欧米、アジアの諸国も研究開発をしております。すでにできておりますロボットと開発中のロボットを入れると数万点くらいになると思うので、ロボットの博覧会を作って、子供たちに夢と希望を持たせるためのロボット教室であるとか、ロボットを世界中から集めたフェスティバルみたいなものを作ったらどうかと思えます。

#### 産官学が連携を密にして健康と医療、観光を結びつけて集客交流を図れないか

3つ目は、経済産業省が進めておりますメディカルバレーであります。三重県もやっておりますが、今後国土交通省も合流していただきまして、健康と医療、それから観光を結びつけた集客交流のことはできないか。世界の4大長寿村である南米のビルカバンバ、パキスタンのフンザ、中国のウイグル、それからコーカサス、日本では沖縄ですが、100歳以上の方がごろごろいますので、医療関係で長生きをするためのそういった方々のシンポジウムをはじめ、健康ということをお題にした催しはできないかと思っております。世界の学者をはじめ、いろいろな研究機関がたくさんあって日進月歩でございますが、日本は世界一の長寿国ですから、それをメインに外国人もどんどん集客するようなことはできないか。

以上のような取り組みを産官学民の連携を密にして、英知を結集し、中部圏の次なる目標をぜひ決めていただくようなことを考えていただければありがたいと思えます。

#### 三重県は東海圏だという意識はあるが中途半端な感じがある

中部圏の定義については、鉄道で見た場合、三重県の場合は旧国鉄時代は天王寺の管理局でしたから大阪とも関係があります。高校野球などは三岐大会で岐阜と三重でいつもやっており

まして、どうも三重県は名古屋と関係が深いのか、大阪と関係が深いのか中途半端な状態で、先が見えないという感じでございます。

しかしながら、東海3県という意識はあります。近畿圏にあると言われることもあり、関西からの観光客は確かに多いのですが、東海圏に属するのだという認識で三重県はいると思います。ただし、尾鷲、熊野の方では和歌山の圏域に入りますし、伊賀上野、名張の方は大阪圏のベッドタウンとなっています。

#### 生態系をも考慮した圏域の議論の展開も必要ではないか

圏域の問題については、関東と関西の分かれ目はどこなのか。これは、天下分け目だから関ヶ原という人もいるし、電力の関係で言えば大井川の鉄橋を挟んで東と西に分かれます。

また、ホテルが日本列島に45種類いるのですが、明滅するパターンが全部違うわけで、関東のホテルは2秒間隔、関西のホテルは4秒間隔です。岐阜県は真ん中ですから3秒です。これは間違いないデータがありますから、真ん中だということを岐阜県のホテルは証明しています。ですから、滋賀を入れるか、長野を入れるかということについては、一度ホテルによく聞いてみたいと思っています。

#### 歴史背景をも考慮した圏域の議論の展開も必要だが、結論の導出は難しい

東海道五十三次について、七里の渡しとか伊勢街道の歴史をずっと調べますと、三重県の間があります。そこは小さな町ながら、3つも関所があったのです。そこを通らないと伊勢神宮へ行けなかったのです。そこが鉄砲などを作って、どんどん商売が繁盛し、山車をいっぱい作って出したものですから、山車があまり高過ぎて見えないので、「関の山」という言葉ができたのですね。

そういうようなことがあるので、昔の歴史を紐解いて、それを現在の環境とか物流とかそういうものとどのように結び付けるかは、各県に住んでいる人たちの様々な意見があって議論がなかなか尽くせないのではないかと思います。別の機関を設けてやらないと、我々だけで結論を出すのは難しいのではないかと思います。

谷岡郁子 委員（中京女子大学理事長・学長）

#### 圏域ははっきりと線引きできるものではなく、にじむものではないか

圏域というものはにじむものだと思っています。線で引くよりは「この辺り」というような発想が必要ではないか。特に、流域といった観点で見た場合、自然の地形が平たかない日本で考えていきますと、にじみ出す部分で見ていかないといけないのだろうと思います。とは言っても、役所の管轄をはじめとして、ある程度対象範囲を決めないと物事が動かないという部分があるのも実際であろうと思います。

#### 地域住民の視点で考えると、小さなまとまりを束ねあげていうことで圏域を捉えることが自然な流れではないか

考え方として、大きく考えてサブブロック化するか、あるいは、小さく考えたところから統合するか、この2方向しかないのだろうというのが単純な規定の仕方かなと思います。

私は、人々により近い視点ということで考えれば、やはり小さい所から見ていって、そして

それがまとまっていくという方向性の方が自然なのかと思います。例えば私の場合、愛知県人ですから、まずはお隣であります岐阜、静岡、そして三重という所が大変気になります。それから、伊勢湾、三河湾の共有部。流域で考えると、もう少し上へ伸びるかもしれない。そういう程度で考えて、それが最終的に圏域として統合されるのではないかと感じております。

#### 長期的な視点から戦略的に考えると「自立」できる圏域が形成できるのではないか

一方で、もう少しマクロに見て「自立」ということを考えると、最終的にはプラグマティズムだろうと思います。何をもち「自立」というかということは別としましても実際的でなければ「自立」し得ないと思います。

プラグマティズムを持って長期的に捉えるなかでは、戦略性がとても重要です。例えば流域について、あるいは外とつながる拠点のインフラとして港や空港をどう使うか、どう共有するかということが圏域を議論するうえで重要になってくると思います。なぜなら、これから皆が生活し、経済活動をやっていく上でのマクロな戦略性の中で、そういう装置づけというものを抜きにしては考えられないからです。もしそのような装置付けがなく、必要であるならばそれを準備するしかないということを含めて戦略的に考えなければいけないと思います。

#### 徳川家康から学ぶプラグマティズムを持った圏域の考え方が重要

おそらく中部の出身者で、これまで戦略的に物事を考え、長期にわたって成功した人は徳川家康であったらと思います。御三家の配置の仕方や、なぜ江戸に幕府を置いたかといえは、京都との力学的な関係を考慮してのことであろうと思います。彼が実際に一番守りたかったのは故郷の三河をはじめとする辺りにある地域だったのではないか。そこで彼はどのような装置づけをして、何を守ったか。例えば東海道は非常に気にしていたと思いますし、様々なことを考えたと思います。

約250年間、平和、安定を守った徳川家康のプラグマティズムを持った戦略性がどういう視点で為されていたのかということの研究してみると面白いのではないかと思います。

ただし、現代とは決定的に大きな違いがありまして、当時は鎖国という状況の中で行なわれたことですから、外とつなぐ時代においてはどのような変化が見られるのかを考えてみると、もう少し客観的なことが今後出てくるかもしれないと思います。

#### ストラテジーを持った圏域の考え方が重要

ストラテジーというゲームがありますが、これはアメリカの士官学校などの教育用に開発されたゲームで、いかに中東をちゃんと取らなければいけないか、いかに昔のユーゴスラビア、バルカンを取らなければいけないかというように、戦略上の拠点となる場所が非常によくわかる仕組みになっているわけです。戦略的に考えて何が重要か、どこが重要か、どのようにそこが圏域としてまとまるかということが実によくわかるゲームで、それを押さえないと勝てないゲームになっております。

そう考えますと、日本においては、物流や情報のつながり方を加えた上でのストラテジーが全くないと思うのです。そういうゲーム感覚に近いところで戦略として考えた場合にどうなるのだろうかというシミュレーションを繰り返せるような装置づけが日本ではあまりやられないのですけれども、そのようなことも考えると今までとは違う視点が浮かび上がってくるのでは

ないかと感じました。

### 太平洋とアジアを向いている地域（縦軸）を結ぶ横軸の形勢が戦略上の要

世界的に見た場合、日本はアジアあるいは東ユーラシア圏の東端なのか、それとも太平洋経済圏の西端なのかという議論があります。

そう考えた場合に、九州は福岡を中心に、これは中心都市というものの性格とも関係があると思うのですけれどもアジアの方向に向いている。北海道・東北圏は、これからの自然資源だと見ていくとどちらかという北方とつながるユーラシアへ向いている。それから、北陸などは日本海を隔ててという形だと思うのです。それと、東京などを中心とした太平洋、アメリカを政治も含めて非常に意識するような世界があるだろうと思います。大阪は少し異なると思っているのは、非常に内陸的な場所で、瀬戸内海を挟んで四国に囲まれてしまっていますから、四国は太平洋圏になるのでしょうかけれども、京都などはどちらかという福井や敦賀などの方向から北を向いているのともちょっと違うかと思えます。

そうしますと、はっきり東ユーラシア圏を向いている北陸と伊勢湾を通して太平洋へ向かっていく愛知を中心とした東海をつなぐ縦軸、横軸が日本全体の戦略上の要になるかと思えます。東海地方と北陸地方が双方から連携を促し、中部圏を形成する努力が必要

東海地方と北陸地方の連携にとって大障害に見える中部山岳が実は大宝庫であるような関係性を作っていくものではなからうかと思えます。これまでは日本列島の背骨的なところを中心にして動いてきたわけですが、その両側をつなぐということをどこまで真剣にやれるか。ある意味では本当にバランスの取れた、長期的に戦略的に成り立つような国家を作り上げることであるとすれば、今どういう関係にあるとも、「なわばり」として東海、北陸というところから始めるとしても、双方から両側に向かって中部圏として成立するような方向へ向かっていく努力を始めないと日本の長期戦略は描けないと思えます。

小笠原 朗 委員（日本政策投資銀行東海支店長）

### 東海4県と長野を発射台に中部の圏域を考えてきた

銀行も東海支店は三重を入れた東海4県です。北陸では金沢に店があったり、山梨や長野あたりは本店で管轄したりということで、やはり中部地域は非常に錯綜していろいろな組織が動いているところがあります。そういう中でなかなか難しいテーマなのですが、三重を入れた4県プラス、中経連は長野も入っているということで、それを入れた5県を発射台に圏域を考えできました。

### 中部5県で都道府県を越える構想を持つべし

国土審議会の資料の中に、都道府県域を越える構想が紹介されていて、中部5県でやっている構想はありません。中部4県+山梨で1個取り組みがありますが、これはリニアです。あとは、中部3県だけでやっているものが4つありました。三遠南信のテーマと、伊勢湾を切り口とした愛知、岐阜、三重の連携です。そういう意味からして、教科書では三重がはずれていますが、結論的に言うとこの圏域には三重は必ず入るべきかなと思います。

東海3県を中心にケースバイケースで周辺県との連携を図るとするのが基本的な考えになるの

ではないか

いずれにしても、愛知、岐阜、三重の3県を中心としたまとまりが多く、その周辺が場合によって加わったりするといった様相です。このように考えますと、コアになる愛知、三重、岐阜という所はわかりやすいのですが、その周辺の所はケースバイケースでいろいろな形の組み合わせが考えられるのかなというような感じを持っております。

具体的にはどういう圏域かということになりますと、愛知、岐阜、三重プラス、静岡、長野は、もし県を割ることが許されるとすれば遠州とか南信というあたりになります。そういうことは考えない前提でやろうということであれば、静岡と長野は外せない。また、今後の社会資本の流れを考えたときには、やはり南北の縦軸の結び付きを深めていく必要があるかという気がしますので、北陸の富山とか石川あたりになります。私の感覚では福井は関西圏だと感じます。

奥野信宏 委員（中京大学総合政策学部長）

人や物の交流の実態について把握することがポイント。また、認知度の高くない東海圏を主張するためには流域圏での議論が必要

人や物の交流の実態についてのデータをそろえることが圏域を論じる上で必要ではないかと思えます。

基本政策部会のときに、人、物、情報の流れが、名古屋、大阪、福岡といった中核的なまちでどうなっているかというデータを調べたことがあります。福岡は九州の中の県、あるいは山口等々とのつながりが非常に強いのですね。意外に仙台などとも割と結びつきがあるのですけれども、名古屋とは驚くほど結びつきがないのです。

一方、名古屋は関西、大阪との人、物、情報の流れ、結び付きがものすごく強いのです。しかしその中で、必ずしも名古屋を知っている人ばかりではありませんから、東海圏というものはないという議論が出てきているのです。だから私は、流域圏ということを目指そうになりました。

東海圏ありきではなく、人・物・情報以外の補強材料で東海圏の存在を主張すべき

基本政策部会では東海圏はあるのだ、中部圏はあるのだということが前提になって議論しています。私はそうなるべきだと思うし、たぶんそうなると思うのですけれども、必ずしも日本人たち皆がそう思っているかといったら、そうではないだろうと思います。五全総のときも最初の議論では特に名古屋圏というのはなかったわけです。やはり東京の人が議論するとそうなるのだろうと思います。だから、東海圏はあるのだということを前提にするのではなくて、人・物・情報の流れは実態として出ていますので、それでもなおかつ補強する圏域としての材料が必要になってくるのです。

圏域を超えた連携を図ることも重要。特に圏域をまたぐよう施策では、隣接するブロックを越えた先のブロックとも連携が必要になる

圏域はにじむものだという話がございましたが、これもポイントだと思います。国交省の説

明は、圏域は決めるけれども、これは本籍なのだと。本籍であって、各ブロック圏にできる協議会には横の地域の委員を加えて入っていただくことが可能なのだという説明がなされています。これは非常に大事な点だろうと思うのです。

圏域とは別の話になりますが、太平洋新国土軸については各地方で議論してくれというのが国のスタンスです。そうやってきますと、隣のブロック圏だけではなく、さらにもう一つ先のブロック圏まで関係してくる話になるわけです。その辺りの調整をどうしていくか。これは圏域とは別の話になりますが、大きな問題だと思います。

須田 寛 座長（東海旅客鉄道㈱相談役）

#### 地方の「なわばり」意識逆用して盛り上げる

東海・北陸を合わせた中部9県で広域観光協議会を作って、10月28日に立ち上げていただきました。

事前の交渉の際に北陸各県の知事や副知事、事務局の方のお話を集約いたしますと、「万博でせっかく広域流動ができたのだから、ぜひ広域で観光をやりたい」ということで、一部の方に至っては、「広域観光しか生きる道はない」と言った声さえもありました。ただ、後で付いてきた条件は、中部広域観光協議会という名称で結構だが、括弧を付けてそこに「東海、北陸、信州」と書いてほしいというのです。

北陸の方に言わせますと、中部というと東海地方の印象が強いため、この地方では気合いが入らないわけですね。東海地方の人は中部でいいのだけれども、北陸も一緒にやるということになれば「北陸」があった方がいいだろう。それから、長野県は「長野」ではなく「信州」だということですね。「長野」と書くと松本の方はどうなのかという議論がすぐ出るのだそうです。

それで、「中部（東海、北陸、信州）広域観光協議会」と括弧内に書いたのです。この括弧がいつの日にかなくなるように皆さんのご努力をいただきたいと言ってきましたけれども、これはかなり大事なことだと思いました。自分の所が端的に示された名前があるかどうかによって気合い入り方が違うのです。すなわち「なわばり」です。その壁を大事にすることによってエネルギーが溜まって、外に出ていく力が養われる。このような考え方もあるのかと思いました。

#### 北陸地方を中部のサブブロックとして扱うのは1つの良いアイデア

今度の場合も、東海・北陸というのは確かにその名前の方が地域の方は気合いがかかるのだらうと思います。仮に中部として一緒にしたら、中部の中に東海・北陸が含まれるということをはっきりPRしていかなければいけないし、サブブロックを作るような考え方で北陸を書くというのも一つのアイデアだと思います。

#### 中部の圏域を考えるうえでネーミングは重要

名前の付け方は非常に大事だと思います。今後も「中部」という名前がいいのかどうかを考えるべきだと思います。「中部」というのは、英語ですと「Central Japan」、日本の中心だという名前なのです。私どものJR東海も英語では「Central Japan Railway Company」なので

日本一の会社みたいに思っている人がいます。そういう意味では「Central Japan」というネーミングはよいと思います。

ただ、「中部」というと既成概念が入ってくると、非常に漠然とするのですね。圏域を決める前に、ネーミングをどうするか。この協議会の「まんなか」というのは、非常にいい名前です。これを正式の名前にした場合に、法律に「まんなか」という言葉はたぶん書けないと思います。まんなかとは何か？ということになりますから。「まんなか」でない人は、「俺は端っこか」ということになりますから、これではいけない。だから、「中央日本」とか何か言わなくてはいいいけません。あるいは「東海」がいいのかもしれませんが。これも一つの大きな課題だと補足させていただきます。

#### 中部ありきではなく、地方のアイデンティティーを打ち出すネーミングが必要

一つのアイデンティティーの出し方というか、初めに中部ありきではないのですね。自然発生的にできているわけですから、それらを補強して、この地域の者が日本のまんなかとしてどうしたらいいかということを考える中からひとつの答えを出していくということではないかという気がいたします。

#### 【座長による総括】

それでは、なかなか要約が難しゅうございますが、私なりに整理をしてみたいと思います。非常に幅の広いご意見をちょうだいできたと思っております。

#### 「自立」するための装置づけと戦略性を確立する必要がある

圏域の考え方につきましては、「自立」できる圏域を作るために、「自立」できるための装置がいるだろうし、戦略性を持っていなければいけないというご意見がありました。

#### 中部における人・物・情報の流れなど社会的条件から圏域を考える必要がある

情報、人流、もちろんこれは観光を含むのですけれども、それから物流、こういったものの流れで共通基盤ができるのだから、そういうものの流れをよく調べて決めていくべきではないかというご意見がありました。

#### 自然条件や歴史風土、文化的な側面、また、流域圏による考え方も必要

自然条件、歴史、風土、特に流域圏等の水ですね、また社会条件を着眼点にした考え方を整理することがあっていいのではないかというご意見がありました。

#### 地域のアイデンティティーを確立するネーミングが必要

圏域の括り方の中で、ネーミングの問題が相当大きな役割を果たすのではないかということです。

#### 中部圏ありきではなく、まとまるべき補強材料を見つけて議論を展開する必要がある

全体的なご意見として、これから考えていく中で、はじめに中部圏ありきではなく、まとまるべき補強材料を見つけてから中部の圏域について議論を展開していく必要があるのではないのでしょうか。そういうことをやはり考えるべきではないかということがご示唆としてあったと思います。

以上が考え方の整理でございます。



中部圏は東海ブロックと北陸ブロックからなる方向性が現実的なところか

圏域にどういう県を含むべきかというご意見でございますけれども、全委員に共通している点が愛知、岐阜、三重だけは、誰もが中部圏だとお考えになっておられることが今日の状況でわかりました。

それにさらに追加をして、静岡と長野ですね。これがやはり中部圏の中で入っていくべき県ではないかというご意見が全員ではありませんが多数ございました。

ただ、ここで注目すべきことは、北陸の富山、石川、福井の3県に対するご関心が非常に高いということです。確かに福井は近畿との結び付きが強い。富山は東京との結び付きが強い。いろいろありましたけれども、やはりこれらは広い意味での中部の中で、小学校の教科書ではないけれども、一緒に考えていくべきではないだろうかというご意見が多くあったように思います。

したがって、具体案としては2つブロックがあってもいいのではないかと。大きい中部ということで一応まとめた上で、北陸ブロックだけ何か特別に、やや独立性のあるブロックとして考えていったらどうか。この辺りが案外現実的なことなのかもわかりませんが、そのようなご意見があって、北陸について委員のみなさんのご関心が非常に高いということが印象に残った点でございます。

最後に、事務局に対するご要望ですが、次回までのお願いなのですけれども、情報、物流、人流の流れを調査していくべきだというご意見がかなりの方からございましたので、そういったことでいろいろデータをお持ちだろうと思いますので、もし何か参考になるようなものがありましたらお示しをいただければ大変ありがたいと思います。

それから、北陸の人が入って議論をしていくことがあっていいのではないかとということがございました。委員に今から入れることは難しいと思いますし、無理だと思いますけれども、事務局の方にオブザーバー的に北陸整備局の方に入っていただくとか県の方に聞いていただくとか、そういうことはあるいはあった方がいいのかもしれないと思いますので、これは他の整備局との関係もございましたから、ご検討いただければと思います。

以上